

JACCRO 短期海外派遣報告

群馬大学病態総合外科

持木彫人

この度JACCRO短期海外派遣制度を利用して、米国の2010 Digestive Disease Week (DDW)に参加してまいりました。本年度のDDWはルイジアナ州のニューオーリンズ (Ernest N. Morial Convention Center) で5月1日から5日にかけて行われました。米国DDWは世界最大の医学系学会であり、世界中から参加者があり13,000人が参加したそうです。ニューオーリンズは御承知のように2005年のハリケーン・カトリーナにより壊滅的な被害を受け、その後の懸命な努力によって再生した町であり、市街地にいる限りその爪痕をほとんど見ることはありませんでした。しかし、ちょうど我々がニューオーリンズに滞在している時にメキシコ湾での海底油田流出事故が発生し、TVでは一日中その様子が放送されておりました。

私は1994年にこのDDWに初めて参加し、その後4-5年は連続して参加しておりましたが、今回は10年ぶりの参加でした。1990年代は日本からの参加者はさほど多くなかったように記憶しておりましたが、久しぶりに参加してみると非常に多くの日本人が参加しており、oral sessionでも堂々と発表されている様子に感銘しました。消化器内視鏡治療のセッションでは日本人の独壇場であり、欧米からの発表が5年近く遅れているように感じました。

胃癌に関する演題では内視鏡治療に関する演題が最も多く、HP感染と胃癌、また胃癌発生の分子生物学的解析の研究も散見されました。胃癌化学療法に関する演題では、TS-1+CDDPを用いた術前化学療法やFOLFOX-4を1st lineとして用いる治療法、Thermo-Reversible Gelatin Polymerを用いたS-1の感受性試験などが発表されておりました。

ニューオーリンズと言えば、多くの方がバーボンストリートを思い出されるかと思いますが、バーボンストリートはストリートの両サイドにレストラン、ジャズクラブ、酒場、お土産店、ホテルなどが数百メートルにわたって続いています。日中は学会会場で最新の研究から多くの刺激を受け、また夜はバーボンストリートでお酒と魚介類（牡蠣）とジャズを堪能することができました。今回の機会を与えて頂いたJACCROの関係者の方々に心より感謝するとともに、登録した抗癌剤治療症例を共に治療してもらった同僚に感謝いたします。